

きんせいうらがきじん でん

## #17 近世浦賀崎人伝

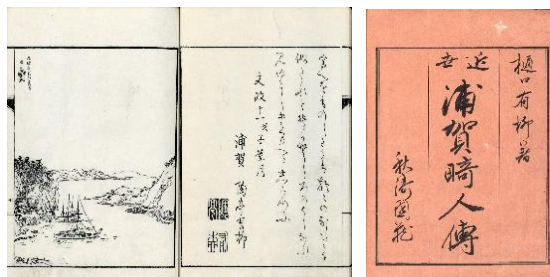
作者：樋口有柳（ひぐち・ゆうりゅう 1764? -1835）

成立：文政11年（1828） - 文政12年（1829）

### 📖 解題

#### ■ 内容

作者の住む相模国浦賀（現・横須賀市）において、安永7年（1778）から文政9年（1826）にかけて物故した作者の交友22名と父について、



[K28. 31/4]

て、職種や略伝を記している。「崎人」とは序文に挙げられている篤厚者、風狂者、豪邁者、滑稽者を指すらしい。職業では僧侶、海運関係者が目に付くが、趣味に目を向けると俳諧を好む者が半数を超す13名もあり、自作の句が合わせて32も取り挙げられている。作者自身の名も当時の俳句集に頻出する。当時の浦賀での俳諧趣味の興隆や文化水準の高さが推量できる一書である。

江戸後期の浦賀では本書も含め多彩な書物出版活動がみられるが、その背景には、享保5年（1720）の浦賀奉行所の設置によって、当時の知識階層といたっていい武士との日常的なつながりが出来たこと、江戸との交流が盛んになったことがある。また、諸国の廻船が寄港する港町として、物流に伴う文化的交流が大きな影響を及ぼした。

文政11年（1828）に書かれた自序、無盡老人（1767? -1835）の序、垣内定の後序、文政12年（1829）に書かれた漢詩人大窪詩仏（1767-1837）の序があり、成立時期は文政11、12年ともいわれるが、唯一の挿絵「浦賀湊風景」（写真）中に「文政庚寅仲夏写」とあり、出版時期は文政13年（1830）12月

に天保に改元) 夏以後であろう。

### ■ 作者

作者は樋口有柳。通称吉左衛門、号は陶亭。相模国東浦賀の干鯛(ほしか)問屋惣代の一人で、しばしば地元古文書の連署に「樋口屋吉左エ門」として現われる。他の著作に『石叟居士追善 くきらの跡』の編著がある。

自序の後にある挿絵「浦賀湊風景」は、谷文二(1812-1850、谷文晁の長男で弟子)の18歳頃の作品である。

### 📖 本文を読む

<翻刻>

高橋恭一「近世浦賀崎人伝」(『三浦古文化』第3巻 三浦古文化研究会 1967)  
[K20.3/3/3]

### 📖 参考文献

高橋恭一「近世浦賀崎人伝」(『三浦古文化』第3巻 三浦古文化研究会 1967)  
[K20.3/3/3]

『近世浦賀の文化史』川島孝平著 浦賀古文書研究会 1979 [K91.31/3]  
杉仁「在村文化の海路交流と書物出版活動」(『近世の在村文化と書物出版』  
杉仁著 吉川弘文館 2009) [023.1/415]  
海原亮「近世浦賀崎人伝」の文人たち(『新横須賀市史 通史編 近世』  
横須賀市 2011) [K21.31/34/3-2]